あの街から学ぶ しおじりの明日

平成27年度常任委員会視察報告

平成27年度は、総務生活・福祉教育・産業建設・議会基本条例推進委員会の4つの委員会が、次のとおり各地の先進事例の視察を行いました。

※詳細は順次ホームページに掲載します。

総務生活委員会

平成27年10月19日～21日

早期復旧で鉄路存続（岩手県釜石市）

㈱三陸鉄道

㈱三陸鉄道は昭和59年4月、日本初の国鉄線からの転換第1号として開業した。宮古市に本社を置き、沿岸部を南北に縦断する鉄道で2つの路線を持ち、営業延長は107・6㎞。その間に26の駅を持つ社員82名の会社である。被災箇所は317箇所で被害額は約92億円になった。

久慈から陸中野田駅間は大きな被害は無かったため、被災5日後にディーゼル車両で運転を再開した。乗客には家や車を流された人もいて、3月中には無料で運行、その後順次再開し、平成26年4月までに地域の住民の協力があり全面復旧した。

三陸鉄道南リアス線　恋し浜駅

復興するとの強い意志と、早期の判断で鉄路の存続と復旧に繋がったとのこと。

気仙沼市役所

危機管理体制は（宮城県気仙沼市）

震災は、気仙沼市議会予算委員会中に発生した。揺れが大きかったため、審議中の予算を即決した。まもなく津波が襲ってきて、午後5時頃、港内で火の手が上がり、3日間燃えていた。

被災時は議会としての災害マニュアルは無く、何をしたらいいか分からなかった。その後5月臨時議会で議員報酬10％減。10月には気仙沼市震災復興計画を議決。平成26年3月議会議員定数30名から24名に減。平成26年5月東日本大震災調査特別委員会を設置。教訓として、訓練は毎年続けることが大事で、マニュアル作成と点検が必要である。

福祉教育委員会

平成27年10月20日～22日

ロボットスーツ装着訓練事業（三重県鈴鹿市）

鈴鹿ロボケアセンター㈱

このセンターでは、身体障がい者が、運動を補助するロボットスーツを装着してトレーニングを行っています。この装置は、装着した人の脳からの信号に反応して下肢の動きをアシストするもので、心肺機能、筋力・運動機能等の回復が促され、顕著な改善が期待されています。

今後、介護者用補助機能のロボットスーツとともに導入の検討が望まれます。

土曜日の教育活動推進事業（山口県防府市）

市内小中学校が、先人の教えに学び、体験を通じて防府の産業や文化を支える人材となることを目的とした事業です。地域の住民の関与のため土曜日が選ばれています。

下関市

おのみち幸齢プロジェクト（広島県尾道市）

高齢者が元気で健康であるための、市職員の課の枠を超えた自発的、積極的な取り組みです。高齢者の生きがいづくり、健康づくり、安心な環境づくりの3本の柱で活動が行われ、「ええじゃないか農」など命名も独創的です。

尾道市

コミュニティ・スクール推進事業（山口県下関市）

教育委員会が主導し、市内73校すべてで実施、学校運営協議会、学校応援団、小中連携、コーディネーターを4本柱に、「地域の力を学校へ、学校の力を地域へ」と学校のあらゆる面を地域に開き、伝統文化の継承や新興住宅地住民の交流にも役立っているといいます。